
第5回 福祉のまちづくりモデル地区推進部会 議事録

平成20年11月22日 14:00～16:30 市民活動サポートセンター

出席者(敬称略): 三浦、河合、宮部、平野、石井、佐々木、山崎、大宮小学校(平沼、浅田、佐藤)、
桜木小学校(阿部)

関係団体職員: さいたま市社会福祉事業団 船戸 さいたま市社会福祉協議会 大橋

事務局: 福祉総務課 並木、手塚

- 【次第】 1 開会
2 部長選出
3 議事等
 1) モデル地区の今後の取り組み
 2) 大宮小学校における取り組み内容について
 3) 事業における人員体制
4 閉会

<モデル地区の今後の取り組み>

事務局 資料確認

資料1、2説明(省略)

三浦 まず、新しく委員になられた方々、大宮小学校、桜木小学校の先生方に条例と指針、高砂小学校、仲本小学校の作成したレポートを資料としてお渡ししてください。
先ほどの事務局からの説明について私のほうから補足いたします。そもそもモデル地区におけるまち歩きを試みは、平成18年度の高砂小学校からはじまりました。高砂小学校のある浦和駅西口はすでに一部の再開発が完了し、タワーマンションが立っている状態でした。高砂小学校では小学校4年生の総合的な学習の時間の取り組みとして、まず学校内部で車いす体験や目隠し歩行体験をしました。また、障害をお持ちの方をゲストにお招きして話を聞くという直接対話の時間をもちました。その後、目の見えない方々や車いすをお使いの方々と一緒に、自分たちの学校周辺をまち歩きしました。普段自分たちが気づかない不便さ、危なさ、使いにくさに気づき、それをまたインタビューという形で確認し、レポートにまとめました。一定の成果をあげたと思います。初年度の反省としては、子ども達の経験がどこまで親に伝わるだろうかということでした。気づいていないのは大人のほうではないかということ、モデル地区の取り組みに参加した先生や地域の方々のご意見から感じました。そのため、翌年の仲本小学校での取り組みでは、早くから仲本地区のコミュニティ組織に働きかけました。幸いにして、仲本小学校では、学校の中で地域のご高齢の方が昔遊びを教えていたり、学校の教育に地域の方が協力されているという平常時からの取り組みがありましたので、その素地を活かしながら、保護者の方や実際に地域にお住まいの障害をお持ちの方にまち歩きに参加していただきました。実際にお住まいの方に参加していただくことで、自分たちの地域にこういう方がいらっしゃり、こういう生活を送っているんだという気づきがありました。その気づきの中から、カーブミラーを植木が隠してしまっていることや、空き缶がたくさん転がっていて歩きにくく、車いすが通りにくいなど、実際に住んでいる人たちが何とかすることが出来る意見が子どもたちの側から出てきました。学習プログラムに参加した保護者の方などがそれを聞いてくださり、同時に感心して、すぐに植木を刈り込んだり、ゴミ拾いの運動になったりというように、地域の中に子どもたちの意見が取り入れられるという成果がありました。このように少しずつですが、同じことを繰り返すのではなく、発展してきた2年間の取り組みだったわけです。

年度が替わり、地区も替わりまして、今年度どのように取り組んでいこうかという状況です。もし、補足等あればお願いいたします。

河合 総合学習の時間には、協会の役員が手分けをしてお手伝いをしています。まれに後で感想文をいただくことがあります。障害者本人の立場から言いますと、それを読んで感じることは、短い時間障害者に触れ合って終わりなのかということです。望むことは、学校の方針としてもそれを継続的に進めていっていただきたいと思います。

大宮のまちの様子について言わせていただきますと、大宮駅は今工事を行っていますが、浦和駅の場合は、それが駅の構内なので案内はよく分かったのですが、大宮駅の場合は、全然分かりません。バスの乗り場が変わったなら変わったということをしちゃんと教えていただきたい。大宮駅はそれが全く分からなかったのが気をつけていただきたいと思います。そういったことを考えていってもらいたいと思います。

宮部 高砂小学校、仲本小学校では、その時々で浮かび上がった課題を皆さんで話し合い、上手く組み立てていったと思います。高砂小学校は手探りでしたが、仲本小学校のときには子どもたちが自分たちで問題を見つけ、それをどのように解決していけばよいのかを自分たちで考え、解決していったとい

うすばらしい成果が得られたと思います。その展開が、今後大宮に場所を移し、浦和とは違い、古いながらのまちの形態と、新しいところから入ってきた方との共有、共生という印象を受け、そういう意味ではまた違った問題点があると思います。それを子どもたちがその目でどうとらえていくのがとても楽しみです。

三浦 ありがとうございます。

佐々木 学校の先生方は、2つのケースをどうとらえていらっしゃいますか。

大宮小(平沼)

私も昨年10月、コムナーレで行われた仲本小学校の発表会に参加させていただきました。とてもすばらしい発表会であるとともに、宮部委員もおっしゃっていたとおり、子どもたちから発信することで、大人たちに大きな影響を与えた、そういう発表会であると思いました。正直なところ、それがプレッシャーにもなっていますが、現在、次の段階に進めるために私どもも努力しているところでございますので、これまでの取り組みに関する説明は後ほどになりますが、皆様からご意見をいただけたらと考えておりますのでよろしくお願ひいたします。

三浦 石井委員はどうですか。

石井 私自身、学校でこういった取り組みが展開されていることを知りませんでした。私の立場では、自分が生活をしていて、今まで少し仕事をしておりまして、それが浦和で、今住んでいるのが大宮で、大宮は河合委員がおっしゃっていたようにバス停がどこにあるのか分からない、時計もなくなってしまい時計をもっていないと時間も分からないというように変わりつつあるという印象です。今まで生活の中でしかまちづくりを考えたことがありませんでしたが、こういう展開をお聞きできたことはうれしく思いますし、大宮への期待もあります。私自身もどういったまちがよいかきょろきょろしながら探しているところであり、より一層努力していきたいと考えているところです。

<大宮小学校におけるこれまでの取り組みについて>

大宮小 資料確認

大宮小学校 第5学年 総合的な学習の時間(おおきな時間)の取組について説明(省略)

三浦 今年度のこれまでの取り組み、今後の取り組みについて説明していただきましたが、何かご意見ご質問がありましたら、どなたでも結構ですのでいかがでしょうか。

宮部 大宮小学校が総合的な学習の時間ではっきりと目的を持ち、これまで取り組んできたことが分かり、今から成果がとても楽しみです。私たちがモデル地区部会の取り組みとして、今のところうまくかわれなかったことをとても残念に思います。これから子どもたち自身が情報を得て、それを噛み砕いて、その上で自分に出来ることを考える一番大切なところですので、私たちモデル地区部会も一緒に積み上げていくことが大事なのではないかと思ひます。

三浦 大宮小学校のほうから今後我々に期待していることはありますか。

大宮小(平沼)

いよいよここから子どもたちが課題を見つける一番大切なところにさしかかりますので、まち歩きに是非何らかの形で大人の方、地域の方に参加していただきたいと思ひます。学校の中だけの活動ですと、なかなかそこまでダイナミックに活動出来ませんので、この部会の中で提案させていただいて、お力添えいただければと考えております。

佐々木 まち歩きにあたっては、ボランティアを導入されたほうがいいと思ひます。特に大宮の地域をよく分かっている方にお手伝いいただいたほうがよいと思ひます。

三浦 具体的には、さらに深めるための活動以降を考えればよろしいということですね。2学期中ということでしたが、具体的な日程等は想定されていますか。

大宮小(浅田)

本当であれば11月下旬を予定しておりましたが、進行等が後手にまわってしまったということもあり、12月中に出来たらと考えております。

河合 私が少し気になっておりますのは、自立支援法にかわってから、障害者に肢体不自由者や知的障害者だけでなく精神障害者も含まれるようになったことです。そのため、障害者全体をどう理解するのかという問題があります。今までは、聴こえない、目が見えないというような範囲だったと思ひますが、これからどう理解を広げていくのかという問題があります。私たちは単独で行動するには限界があります。対人関係では特に苦労しています。そのために手話通訳問題研究会という団体がござひます。そういう人たちの協力があるということについても、地域の方々を知っていただく必要があるのではないかと考えています。

三浦 高砂小学校、仲本小学校の体験型プログラムにアドバイスをいただいた事業団、社協の担当の方に来ていただいておりますので、ご意見を伺いたいと思ひます。

船戸 先ほど、宮部委員、大宮小学校の教頭先生からもこれからが大切だというお話がありましたとおり、

かわり方を間違えてしまうと、まち歩きがただのイベントで終わってしまう恐れがあります。そのため、短い時間ではありますが、しっかり視点を持って取り組んでいきたいと思えます。

高砂小学校があって、仲本小学校があって、それぞれ成果を残してきたということですが、本来ならばこの場で、その後どう取り組んできたのかを検証していかなければならないと思えます。それぞれを段階を踏むためのステップで終わらせてしまうのではなく、まちそのものは常に動いているわけですから、それにどう取り組んできたのかを部会として検証していかななくてはならないのではないのでしょうか。本来それがあって大宮小学校にむかわなければならなかったと思うのですが、非常に差し迫っているところですので、一方に意識化していかなければならないと考えております。

高砂小学校のときには、私はときどき子どもたちに「一緒に整ったまちを見に行こう。」という表現を使ったのですが、私たちとしては、ほぼ完成されたバリアフリー、ハードの面ではかなり整っているところを、障害当事者と歩くことで、子どもたちの見方が少し変わるのではないかと思えました。実際歩いてみると、不便なところが当事者の方々から出てきて、子どもたちもそれに気づくことができました。仲本小学校のときには、この周辺は計画は出来上がり、そこに向けて工事中で、ある部分は歩道の幅員がきちんととられ工事も終わっているが、一步裏にまわるとまだ工事中といった状態でした。私たちは子どもたちとのやりとりを通じて、出来上がると便利になるという課程はとても不便であるということに気づかされました。工事の機械やカラーコーンが置いてあったり、バス停の位置を示す点字ブロックは仕上がっているがまだバス停がなかったり。まちづくりが完成しきることはありえないということ子どもたちから教えられました。これが出来るといいまちになるよということで行っている課程も進行形ですし、出来上がっても、あちこちに不便な面が出てきている。ソフトの面を含めて、まちづくりは必ず進行形であることを気づかされました。

高砂小学校の場合は、学校の周りはほぼ完成されていたろう、仲本小学校の場合は、今まさに変わらんとしているところ子どもたちは体験しました。さて、大宮小学校の周辺はどうだろうか、というときに大宮小学校のテーマはおのずから浮かびあがってこなければならぬと思えます。今あるまちをただ当事者と歩くということだけではなく、大宮小学校周辺のテーマというのを子どもたちから気づかされるのではないかと思っています。これは、大人が設定するものではなく、子どもたちが気づいてくれると思うのですが、私たちとしては、宮部委員のいうとおり、新旧が混在している、もっと言ってしまうと開発がとまってしまっている大宮の不便なところは実際どこなのだろうということも一緒に見つけていけたらと思っています。単純にイベントとして終わらせないために、あまりいそがずに、きちんと準備しながら、その中で子どもたちの気づいた点をきちんと引き出して上げられるような私たちの視点を確認する必要があると考えております。

それから、質問させていただきます。高砂小学校のときには、私たちと子どもたちのかかわり合いだけで終わってしまい、気がついたら地域の方が抜けてしまっていました。そのため、仲本小学校のときには当初より地域の方に加わっていただきました。大宮小学校では、今までの地域の方々のかかわりについて、どう取り組んできたのかを、資料やお話からは伺うことが出来なかったもので、教えていただきたいと思えます。もし、まだかかわりがないようであれば、どういった形で加わっていたのか、久世氏がいらっしゃったらお伺いしたかったのですが、たぶん今までの清掃活動等の活動があると思うので、そのあたりとのからませ方というか、そのあたり実際5年生の総合学習の時間で出来るかどうか分からなかったので、お伺いしたいと思えます。

三浦 ご意見とご質問ということで、質問への回答を大宮小学校からお願いします。

大宮小(平沼)

先程も申し上げたように、地域と学校は非常に連携が強く、学校としても非常にありがたい状況でございます。今回の5年生のこの授業に際しまして、ご協力いただいたのは、大宮中部地区の社会福祉協議会にご協力いただき、白杖、車いす等の貸し出しをしていただきました。地理的にも、相談にのってもらいやすい環境にあります。あとは、この授業から少しはなれますが、地域や中部地区の育成会主催のクリーン活動にも多くの子どもたちが参加しています。また、授業とは直接関係ありませんが、大宮小学校は二十数年間毎週ボランティアの子どもたちや先生が早く来て授業がはじまるまでの時間、駅前中央通りの清掃活動をしています。これにより区役所の方々も同じ曜日に清掃活動に参加して下さるようになりました。また、学校の裏にある福祉専門学校の学生さんからも、一緒に参加させてくださいという申し出があり、一緒に清掃しています。また中央通りに何件かある銀行の行員の方々も時折参加していただいております。清掃活動を通じて当たり前のように連携がうまれています。授業については、これまでは学校の中で基本的なことを勉強していくことが多く、これから地域の方のご支援をいただいて進められればと思っているところでございます。

大宮小(浅田)

子どもたちは、いろんなところに出て調べてみたい、障害のある方とかかわってみたいということを中心にかなり早い段階から言い出していました。興味がわいたから「はい、どうぞ。」とすぐにかかわら

せるのはどうかと思い、私たちとしてはストップをかけ、もう少し深めようというような感じで、ためてやってきました。子どもたちの理解も深まり、意欲も向上してきたところなので、これからどんなにかかわってってくれるのではないかと思います。地域の方は本当に協力的で、子どもたちを外に出すときも、小グループに分けて外に出したいといったら、グループごとについてまわってくださる方がたくさんいらっしゃると思います。実際、保護者の方や、地域の方に頼むといいよとってくださる方は多いと思うので、できれば今後依頼していけたらと考えております。

宮部 関連してお伺いしますが、大宮小学校の児童の中に、障害のある方はいらっしゃいますか。

大宮小 大宮小学校は、通常学級が12学級、特別支援学級が4学級となっております。また、5年生には下肢に障害のある児童が1名おります。

三浦 地域のお話のなかで、平時のかかわり、このカリキュラムについてお考えがあればお聞かせください。

山崎 先ほどのご質問については、ほぼ教頭先生のほうからお答えいただいたとおりです。このプログラムについては、これからかかわりが出てくるのかと思いますが、清掃活動については、子どもたちが永年行っている活動であり、先程お話しした以外に企業からも、是非参加させていただきたいというお話がありました。それについては、時間帯等について子どもたちを優先に考えておりますので、まだ実現したことはありませんが、校長先生とも相談したことがあります。

また、このカリキュラムとのかかわりについては、お声をかけていただいたときには内容が把握できていなかったため不安な面もありましたが、先ほどの船戸さんのお話を聞いて、とても安心しました。やはり、子どもたちが5月から丹念に積み重ねてきたものですので、まち歩きが単なるプログラムの一環として与えられてしまうのは惜しく、どういった取扱いをしていくのかすごく不安でした。高砂小学校、仲本小学校ではない大宮小学校ですし、もちろん地域がちがいます。大宮はちょうど変わってきておりますので、そういったことに子どもたちが自然と気づいてほしいと思います。こういった形で受け皿となっていたただけなのか気になっておりましたので、よくすり合わせをしていただいて、子どもたちにとって単に1年間のこの時だけの体験ではなく、子どもたちにも地域にも残るものとして、地域の方にも受け入れられるような授業になってほしいと思います。

船戸 実は、浦和地区が終わって大宮地区にむかうとき、最初から大宮小学校という話だったわけではありません。部会の中では新都心も議題に上がりました。では、なぜ大宮小学校、桜木小学校というところに至ったかという、せつかく高砂小学校、仲本小学校を通じて地域とのかかわり、従来から住んでいる人たちも一緒にというテーマが出てきたのに、まだ従来の方々が駅周辺にいらっしゃる状態ではない新都心のようなつくられたまちでは、単にバリアフリーが完成されたなかを、当事者たちと一緒に歩くということだけで終わってしまうからです。むしろ、従来の方が住んでいるまちで、その中で生活されている方と一緒に何かを体験するということが重要であると考え、あえて大宮小学校、桜木小学校というところに計画をもっていきました。その経緯はきちんとお話しておきたいと思いました。

もう一つお話しておきたいことは、子どもたちに何かを体験させるのが総合的な学習かもしれませんが、大宮の地域に住む人々が、子どもたちに体験させることを手伝うボランティアというのではなく、共に歩くことが大切だということです。共に歩くことで、子どもたちに気づかされる、大人たちが気づいた事を子どもたちに伝えていくことができ、それにより、ひとつのコミュニティが形成されると思います。せつかく別のところで地元の人とつながりがあるのだから、間に合うならば銀行さんや企業さんに積極的にこの授業に参加してもらったり、あるいは、それが無理ならば発表のときだけでも見に来ていただいたりすることが非常に重要なのではないかと考えております。そうすると、商売をされている方には失礼かもしれませんが、自分の店の看板が他の方には邪魔だったということに気づくかもしれません。そういうやりとりがあってはじめてコミュニティがつけられると思いますので、地元の方とうまくからんでいきたいと思っております。

三浦 では、次に大橋さんお願いします。

大橋 先ほど大宮小学校の総合的な学習のプログラムを拝見させていただき、すごくいい流れだと思いました。ですから、これからお話しさせていただくことは、そのプログラムを批判するものではなく、皆さんで共有していきたいと思っておりますことだと考えてください。

まず、高砂小学校の時には、浦和のひとつの小学校のためにオールさいたま市から色々な方に参加していただき、大勢で歩いたという感じでした。モデル事業だからこそ、たくさんの協力者に謝礼金も出せましたが、このような実践を他の学校でやろうとしたときに出来るかといわれたら、それは出来ません。モデル事業で予算があり、つながりもあったからこそ出来たことです。そこで、翌年、仲本小学校で考えたことは、障害者であれ高齢者であれ、地域の人、その学区の人たちに参加してもらおうということでした。この形であれば、どの地区、学校にとってもモデルとなりえます。この部会に関わっている人は別としても、遠くに住んでいるスペシャリストを呼んでくるのではなく、地域に

住んでいる人を中心に関わってもらった方が継続性も保たれるのではないかと思います。

また、船戸さんもおっしゃっていたとおり、子ども達の総合的な学習の時間に関わった大人たちの学びになっている、自然と大人たちの総合的な学習の時間にもなっているというのがモデル事業のポイントだと思います。大人が子どもたちにどういった福祉観を伝えていくかを考えていくことで、自分自身の福祉観を問い返えされる。それによって大人たちも変わっていき、地域が変わっていく。先ほどの看板の事例もそうですが、例えば商店街の人が関わると、うちの店には目の不自由な方が読めるメニューがない、車椅子の人が入れるスロープがない、介助犬のシールが貼ってなかったなどということに地域の方々が気づき地域が変わっていくというのが、このモデル事業であり、福祉のまちづくりなのだと思います。子ども達の福祉教育に協力していただきとえば、きっとたくさんの人が参加して下さると思います。これを上手く地域の学びあいにつなげていけたらと思います。

さらに、モデル事業を評価するうえで、当日の学習がどうだったかということとは別に、この学習を通じて地域の人たちにどのようなつながりができたか、そのつながりがどのような問題解決能力をつけ、地域でどのような変化が起こったのかという点も併せて見ていく必要があると考えています。

一昨年の高砂小学校の時には、授業終了後にふりかえりの機会がありましたが、去年の仲本小学校では、あまりふりかえる機会がありませんでしたので、ひとつだけ、こうした方が良かったと思う点をお話させていただきます。それは、授業に関わった大人たちが一同に会し、話し合い深める機会を持つということです。そうすれば、互いに影響し合って、大人達も地域も変わっていったと思いますし、そのような仕掛けをするのがこの部会の役割だと思います。学校の授業を借りつつ、それを地域ぐるみの学び合いにし、地域を変えていく『地域ぐるみの学びあい』の形がモデルなのだと思います。このような実践が、さいたま市のあちこちで行われることによって、福祉のまちづくりが具現化していくのだと思います。また、授業には、我々も含めて様々な人が早い段階から関わり、学びあいの時間を長くしていく方が有効だとも思います。

三浦 部会長をまたお引き受けした格好ですけれども、軽い挨拶だけでお引き受けしてしまいましたが、こうやって議論をきいていると、モデル地区部会そのものの果たす役割をきちんと捉えて、学校の総合的な学習の取り組みは、あくまで学校の目指すべき成果が基軸にあり、我々はそれを利用させていただき部分もありつつ、かつ全市にその意味が広がっていくように、常に意識してやっていかなければならないと思い、あらためて身が引き締まる思いです。時間の制約があるなかではありますが、せっかく平成22年までの委嘱ですので、年末の限られた時間に何が出来るかという議論ではなく、もう少し長いスパンで考えていけたらと思います。

今後の動きを含め、先ほど高砂小学校、仲本小学校のフォローアップ、事後検証が必要ではないかというご意見もありましたので、次の議事に進んでいきたいと思っています。

<事業における人員体制について>

事務局 議事3の内容につきましては、今回の大宮小学校の取り組みに対し、どれくらいのご協力等いただけるかについて話合うものとなっております。大宮小学校のほうから期日、方向性等をお話いただけたらと思います。

三浦 先程のご説明の中で、学校の公開日が1月に予定されているということでしたが。

大宮小 1月の29、30日の2日間を予定しております。

三浦 曜日は木曜日と金曜日ですね。

平野 時間は何時からですか。

大宮小 1月29、30日の2日間、9時半から12時20分までが公開となっており、その中の2、3時間目を予定しております。5年生のこの授業については2日間のどちらか、候補としては30日の金曜日の10時くらいからを予定しております。

三浦 学校公開日ということだと、先ほど委員の皆さんから出たように、地域の大人、企業の方々、保護者の方や他の学年の子どもたちも見学の可能性があるということですね。

大宮小 他の学年の子どもたちは授業がありますので見学は難しいと思いますが、保護者の方、地域の方に広く公開したいと考えております。

三浦 そこをひとつの目標として、地元の方にきちんと趣旨を理解した上でご参加いただきたいですね。これまでの取り組みの中で、中部地区社協にご協力いただいているようですが、ある程度、地域への情報の広がりはあるのでしょうか。

大宮小 この件については、まだ十分でないと思います。1対1で物をお借りしているという状況です。

三浦 分かりました。

大宮小 学校としましては、出来れば12月の2週目くらいまでに、これまでの学習を活かして大宮駅東口を中心としたまち歩きを実施したいと考えております。こうしたほうが子どもたちのまち歩きが深まりますよというのをアドバイスいただき、ご支援いただきたいと思っております。

具体的な日程についてお示しできたらとは考えておりますが、学校の予定もありまして。冬休みが12月25日からはじまりますので、実質、学校で勉強できるのは3週間ほどということを考えますと、第2週目の間に1から2日、そういった活動がとれたらと考えております。

三浦 河合委員、学校さんからの要望は、第2週までにまち歩きを実施したいとのことですが、地域のご高齢の方、障害をお持ちの方などさまざまな方のご参加いただくというのは当然のこととして、団体を通じてご協力いただいて、より理解を深めるということも可能であれば、是非ご助言いただけたらと思っております。

河合 先程も申しましたとおり、協会として協力するのは当然ですが、手話サークルの方たちも含めて、日程が問題です。協会のイベント等もありますので、早めに決めていただけてご連絡いただければと思っております。

三浦 地元での根回しも簡単ではないでしょうし。

山崎 まずはこの部会でご協力いただくことが大きな力となりますので、後は地元に戻りまして、動いていきたいと思っております。

三浦 この場での議論は何日かということではなく、速やかに、出来れば2日ほど候補日をあげていただいて、より多くの方が参加できる日にしていただけたらと思っておりますので、事務局のほうは連絡調整をこまめにしてください。

この場での思いつきの発言ですが、来年度にむけてスムーズにつなげるために、学校の事情も踏まえながらですが、例えば、推進協議会に先生や地域の方に参加いただいて感想をいただくなど、地域の方とのつながりを年度内にもう一度もてたらと思っております。また、桜木小学校での取り組みに対しても、初期的な学習段階から連携をとり、柔軟に対応していきたいと思っております。

事務局 来年度から総合的な学習の時間がかなり少なくなるというような情報があるなかで、学校のスケジュールについて校長先生のほうから何かあればお願いします。

桜木小 学校により異なりますが、1月か2月にはある程度21年度の予定をたてておりますので、3月でしたら問題ないと思っております。私自身この部会にはじめて参加しまして、不安な部分と心強い部分がございますが、もう少し話し合いに参加し、学校が出来ること、協力していただくことを選定していきたいと考えています。

三浦 ちょうど今日ご参加いただきましたので、ご配慮をお願いしたいと思います。

【閉会】

以上